

ツマアカスズメバチ防除対策の全体概要



生態・影響

- * 中国・台湾・東南アジア・南アジア原産。韓国やヨーロッパで定着が確認されている。
- * おもに昆虫類（ミツバチなど）を捕食。**樹木の高い位置に、在来スズメバチより大きな巣を作るのが特徴。**

おもな
影響

生態系

在来種と競合

人体

刺傷被害

農林水産業

養蜂業の被害



▲ 在来種との形態比較 [写真：(一財)自然環境研究センター]

経緯

- 平成24年10月 長崎県対馬市で国内初確認（その後、国内で唯一定着）
- 平成25年度～ 環境省が関係機関と連携しながら防除を実施
- 平成27年3月 ツマアカスズメバチを特定外来生物に指定
- 平成27年度～ 国立環境研究所が化学的防除手法を開発
- 平成27年9月 福岡県北九州市で営巣を確認（その後、確認なし）
- 平成28年度～ 対馬市生物多様性協議会が対馬における巣の探索・除去を実施
- 平成28年4月 ツマアカスズメバチ防除計画を策定
- 平成28年5月 宮崎県日南市で女王バチ1個体を確認（その後、確認なし）
- 平成29年9月 長崎県杵岐市で働きバチ5個体を確認（その後、巣を発見・除去）
→ 平成30年5月 女王バチ1個体を確認（その後、確認なし）
- 平成30年10月 大分県大分市で営巣を確認（その後、確認なし）
- 令和元年10月 山口県防府市で営巣を確認（その後、確認なし）
- 令和4年4～10月 福岡県福岡市及び久山町で女王バチを確認、その後の調査で複数箇所で働きバチ及び1箇所の営巣を確認
(巣の駆除、化学的防除を実施し令和4年度内はその後の確認なし)



防除対策

①

定着地域に
おける防除
(長崎県対馬市)

- 春期女王バチ防除により繁殖を抑制 **低密度化**
(市民によるトラップ設置・高密度地域での集中防除)
- 夏・秋の定期的な全島モニタリング調査 **生息状況把握**
- 拡散拠点（港湾）における防除 **拡散防止**
- 巣の探索・除去（対馬市生物多様性協議会が中心となって実施）
- 化学的防除手法の開発（国立環境研究所が中心となって実施）
- 巣探索に関する新技術開発（対馬市がKDDIと連携し実施）

②

侵入初期地域に
おける防除
(福岡県福岡市周辺)

- 侵入確認直後の緊急防除 **初期対応が重要**
- トラップを用いたモニタリング調査
- 巣の探索・除去、化学的防除

乳酸菌飲料（カルピス）
を誘引剤に使用した
ペットボトルトラップ

③

未侵入地域に
おける防除
(九州各港湾)

- トラップによる
定期的な監視調査
(自治体に協力依頼)

◆ 生活史に合わせて防除スケジュールを組み立てることが重要

